

# 研究実施のお知らせ

2019年2月25日 ver.1.0

## 研究課題名

妊婦悪阻と歯科保健に関わる知識に関するアンケート調査

## 研究の対象となる方

2013年4月から2018年12月の間に、島根大学医学部附属病院マタニティ歯科外来を受診した妊婦を対象とします。

## 研究の目的・意義

妊娠中、女性の体には全身的な変化が起きることが広く知られています。具体的には、ホルモン分泌の変化による眠気や便秘・頻尿などが挙げられる他、悪阻もまた一般的な症状の1つとしてあげられます。妊娠によって起こる消化器症状（悪心、嘔吐、食欲不振）を”つわり”といい、重症型を妊娠悪阻といいます。この妊娠悪阻は消化器症状のみならず、口腔衛生状態や食行動の変化に広く影響を与えることが知られています。実際、妊娠2ヶ月の妊婦の50%は「歯磨き時に嘔吐がくる」と回答したとの報告があり、妊婦が口腔清掃行動を避けている可能性が示唆されています。また、「悪心」は空腹時に出現することが多く、妊婦は悪心出現時の予防対策の1つとして間食をしていたとの報告があり、食行動にも影響を与えるとされています。従って、妊婦は口腔衛生行動と食行動の変化により歯周病やう蝕に罹患しやすく、歯牙を喪失するリスクの高い集団であると考えられます。

しかし、妊婦に対する歯周病治療や口腔衛生に関わる保健指導には課題が複数存在し、中でも次の3つが大きな課題としてあげられます。1. 妊婦が歯周病やう蝕病原性菌の母子伝播を含め、早産・低体重時出産の知識を得る機会が少ないこと、2. 理想的には妊娠前などの早期から口腔衛生行動を意識付け、動機付けをさせるための産科と歯科の緊密な連携が進んでいないこと、3. 妊娠中の歯科未受診の理由は仕事が最も多いとの報告があり、妊婦を含む社会全体への周知が遅れていることがあげられる。

島根大学医学部附属病院では2013年4月よりマタニティ歯科外来（以下、当科）を開設し、妊婦に対して早期にう蝕、歯周病に関する保健指導を実施することで、早産・低体重時出産を予防する取り組みを産婦人科とともに連携し、実施してきました。妊娠中の歯科保健指導は、妊婦の自覚を促す効果があり、知識の定着につながるため重要な取り組みであるが、一方で、効果的な介入方法については改善の余地を大きく残している現状にあります。当科では、歯科保健指導の際に自記式質問用紙による問診票と口腔内診査を実施しています。そこで、当科にて収集された問診票のデータを

もとに、妊娠悪阻の経験が歯科保健行動に影響を与え、知識が豊富になるとの仮説をたて、両者の関連性について検討を行うことで、より効果的な歯科保健指導のあり方を検討することを目的として研究を実施します。

## 研究の方法

2013年4月から2018年12月の間に、島根大学医学部附属病院マタニティ歯科外来を受診した妊婦に対し、自記式質問用紙と口腔内審査を実施しており、電子カルテよりデータを採取します。

## 研究の期間

2019年3月から2020年3月まで。

## 研究組織

この研究は次の機関が参加して行います。

研究代表者（研究で利用する試料・情報の管理責任者）：

島根大学医学部歯科口腔外科学講座 松田 悠平

## 試料（検体）・情報の利用停止

ご自身の試料（検体）・情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2019年5月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

## 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の試料（検体）・情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部歯科口腔外科学講座 松田悠平

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2301 FAX 0853-20-2299